

PLANTEC GROUP

NEWSLETTER 2014 vol.5



Facility management strategies for corporate growth

企業を強くするファシリティ戦略

1. クライアントの声

スタンレーグループは世界の5極（日本、米州、欧州、アジア大洋州、中国）に39の関係会社をもち、グローバル展開を図っています。「光の価値」と「ものづくり」を追究する当社にとって、生産革新活動の弛（たゆ）まぬ実践は使命であり、グループ各社が自律してそれに取り組まなければなりません。

ファシリティマネジメント（FM）の観点から生産革新活動を支えるために、スタンレーは独自の「FMスタンダードガイドライン」を制定しています。これは建物のコンセプトを実現するために「ソフト」と「ハード」を統一して規定することで全拠点における「製品の品質確保」、「円滑で効率的な業務の遂行」、「保全」が可能な環境づくりを目指すもので、導入にはプランテックグループの多大な貢献がありました。

今後スタンレーの工場建設に携わる全関係者が共有することで、常にどの工場も最新で最適なノウハウにより構築・運営され、グループ全体の生産革新活動を加速してくれるものと確信しています。

また、当社は生産拠点の拡張や建て替えが一巡したことを機に、同グループの協力のもと、本社の建て替えを行いました。新社屋には免震構造を採用し、従業員、顧客、地域住民の安全を確保するとともに、グループの中核としての迅速な意思決定と情報の受発信を担い、次の100年を見据えた「グローバルコミュニケーションのハブ（中心）」にふさわしい環境を実現することができました。



スタンレー電気株式会社
代表取締役社長
北野 隆典

2. プランテックグループ全体でファシリティ戦略をサポート

スタンレー電気のビジネスパートナーとして22年間ファシリティに関する支援を行ってきた

私たちプランテックグループは、スタンレー電気の成功を実践するビジネスパートナーとして、1991年の旧本社正面玄関の改修からスタンレー電気グループのグローバル本社まで、22年間、様々なプロジェクトを通して、ファシリティソリューションのOnlyOneカンパニーを目指し、スタンレー電気と共に革新してきました。また、建築設計を行うプランテック総合計画事務所を母体に、時代の流れ・クライアントのニーズに対して柔軟に対応するために、

“ファシリティに関わる全てのコンサルティングを行うプランテックコンサルティング”、“施工を行うアセット・ファシリティーズ”、“ICT・ビジュアルイズソリューションによってあらゆるコミュニケーションをデザインするクオリクス”、“企業の海外展開の支援を行う PLANTEC INTERNATIONAL LIMITED” を設立し、ワンストップかつスピーディーにサービスを提供するプロフェッショナルな集団としてあり続けてきました。



本社関連

国内拠点

海外拠点

幅広い領域で独自のソリューションを提供

私たちプランテックグループの最大の特徴は、ファシリティマネジメント（FM）を経営戦略的視点から構築・運営するため、経営陣へのFMに関する提言のみならず、その実行解決に伴う設計から施工、運用、管理までの幅広い領域で他社にないソリューションを提供できることです。戦略構築に特化したコンサルティング会社と異なり、企画、設計、施工だけでなく、複数の側面からファシリティ戦略構築に対するソリューションを提供します。

経営戦略に則ったファシリティ戦略構築の支援

どうすれば、経営の思いを現場に反映出来るか？
スタンレー電気では、ファシリティに関する各拠点のプロジェクトを一括して管理する“FM ステアリングコミッティ会議”を開催し、意思決定フローの改善を行ってきました。その結果、経営層はスピーディーかつ正確な判断ができ、決定事項は共通のルールとして他プロジェクトへ展開することが可能となりました。しかしながら、日本の企業の多くはFMを活用しきれていません。ファシリティの構築及び運用は、企業戦略とは異なった部分最適で判断されることが多く、部門別や案件別での投資管理がなされ、その結果、将来的なビジョンが欠けた施設建設や、遊休資産の放置など、無駄が多いのが現実です。特にグローバル展開での、海外拠点を含めたFMは多くの課題を抱えています。私たちはこれを企業全体の課題と考え、FMの統括者（Chief Facility Officer=CFaO）を任命しCFaOを軸に、効率的にマネジメントする事を提案しています。CFaOは経営戦略からファシリティ戦略までを立案し、経営権を持ったコーディネーターとしてファシリティの全社的最適化を実現します。そこで必要となるのは、CFaOと、そしてそれを支えるFMチームです。日本の企業において不足がちになるFMチームの代わりとして、企業戦略を理解した上で、組織横断課題を含め、全社的なFMを支援します。

1991 旧本社正面玄関改修

1998



▲ サブ・アーバンオフィス

2004 秦野製作所再構築プロジェクトスタート

2005



▲ いわき製作所



▲ 浜松製作所

2006



▲ 秦野新 6 号館

2007



▲ オプトテクニカルセンター



▲ 広島工場

2008



▲ 秦野 4 号館改修

2009



▲ 秦野新 1 号館 1 期



▲ 広州スタンレー

2010



▲ 秦野新 1 号館 2 期



▲ ベトナムスタンレー

2011 FMスタンダードガイドライン策定



▲ 新潟製作所



▲ ブラジルスタンレー

2012 本社竣工



▲ 本社



▲ 秦野新正門



▲ タイスタンレー

2013 秦野再構築プロジェクト完成



▲ 秦野再構築プロジェクト完成

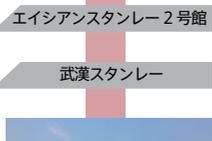


▲ インドネシアスタンレー

2014



▲ 岡崎製作所ストア棟

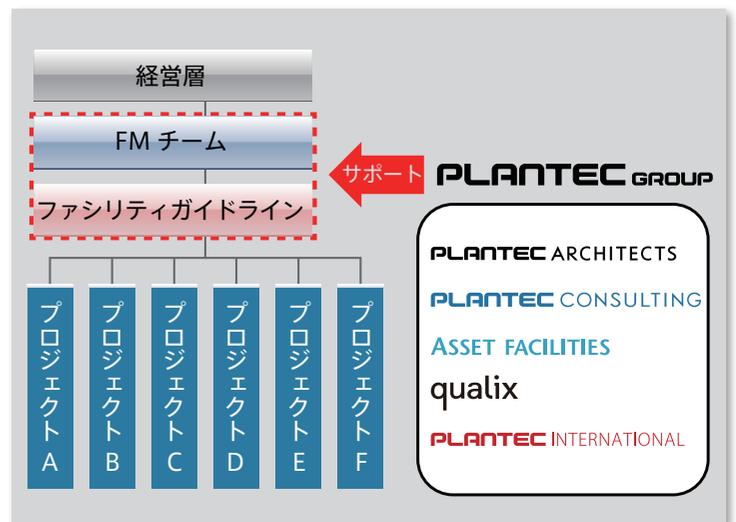


▲ エシアンスタンレー 2 号館



▲ 武漢スタンレー

▲ エシアンスタンレー 1 号館



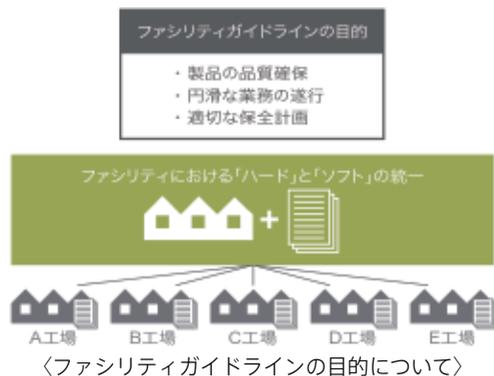
〈プランテックグループによるファシリティ戦略構築の支援〉

3. ファシリティガイドラインの策定

なぜファシリティガイドラインが必要か

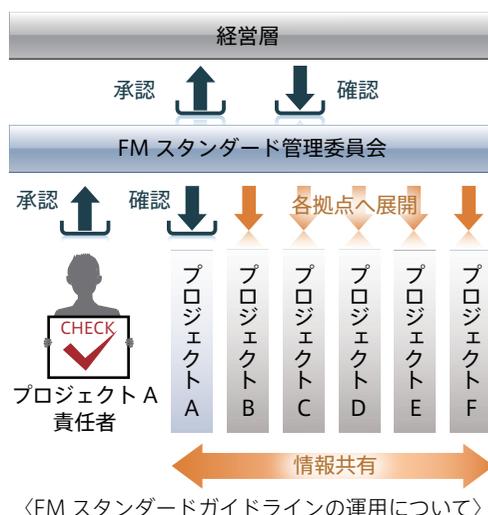
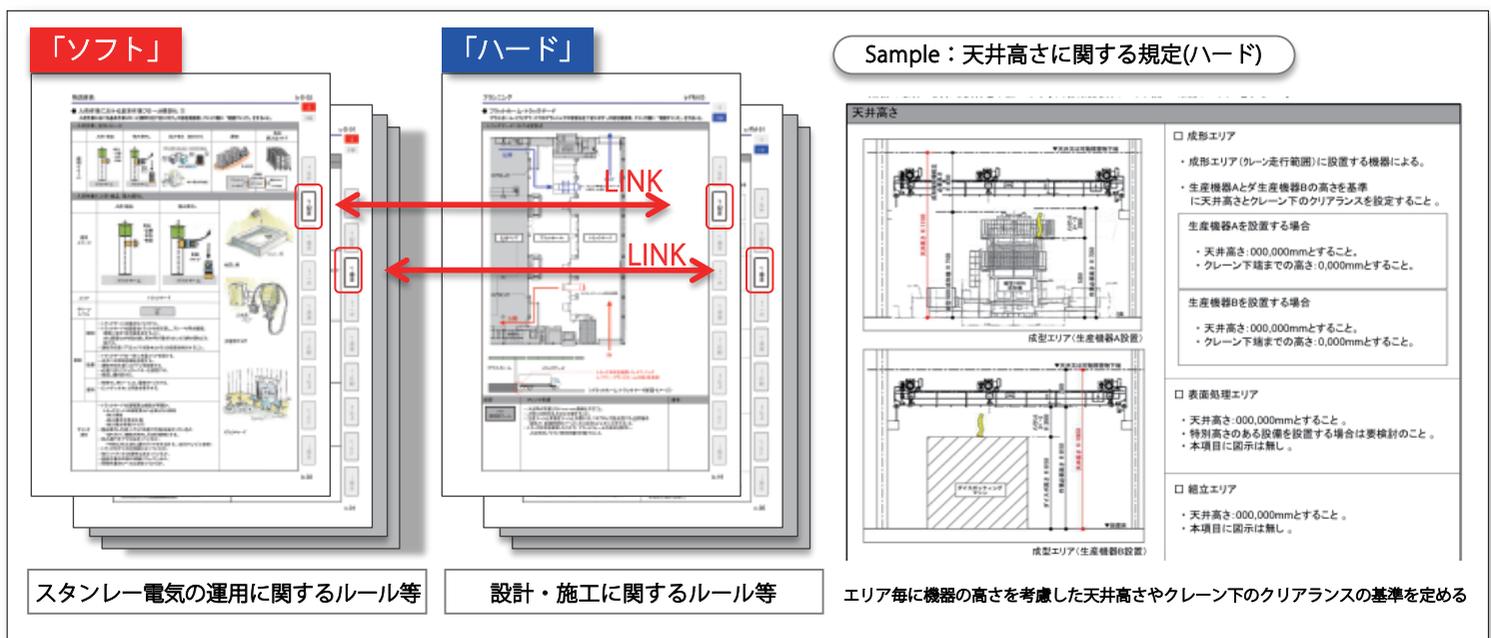
「ファシリティガイドライン」とは

- ① 多数の拠点を活動する企業が行う施設構築において、その企業の方針と戦略を施設および付帯する設備に適切に反映するためのチェックリスト
- ② 施設構築において出戻りなく、もっとも短期間で完成させるためのガイド
- ③ 施設に関わる企業のもつノウハウを継承するための記録
- ④ 企業が時間をかけて構築してきたオペレーションと共有すべき価値観を学ぶための教科書



国内外に複数拠点の生産施設を展開している会社の場合、担当者の経験値や請負会社の技量、地域国別の特性等、様々な不確定要因から一貫的な品質に欠けた計画が横行してしまいます。そのような状況に対して、誰が何処で計画しても一定以上の品質を確保するための、ハードとソフトを織り交ぜた「ファシリティガイドライン」を策定することが重要になります。スタンレー電気では、「製品の品質確保・円滑かつ効率的な業務の遂行・保全」が出来る環境づくりを全ての建物で実現することを目的とするため、現場の方との協働により、スタンレー電気としての建物における「ソフト」と「ハード」のFMスタンダードガイドラインを策定し、環境の統一化を目指しました。

ファシリティガイドラインの策定から運用・更新までサポート



FMスタンダードガイドラインは、スタンレー電気の運用に関するルールをまとめた「ソフト」と、設計・施工に関するルールをまとめた「ハード」からなり、それぞれはリンクしており、ハードに関するルールは実際の運用をもとに決められています。例えば、建物の構造に関する規定を決める項では、まず「ソフト」において各エリアの生産機器のスペックを設定。それを基に運用を考慮して、天井高さ、柱スパン、床耐荷重等、「ハード」に関するルールを各関係部署とともに規定しました。

運用方法は、プロジェクトのフェーズ毎に“責任者”がチェックし、それを“FMスタンダード管理委員会”が、ファシリティガイドラインに則っているかを確認します。経営方針に合致した「ソフト」と「ハード」に関する取り決め事項を工場建設に携わる全プロジェクト責任者に、漏れのない形で情報発信し、常にどの工場も最新の情報で運営されるためのガイドラインとなります。

〈FMスタンダードガイドラインの運用について〉

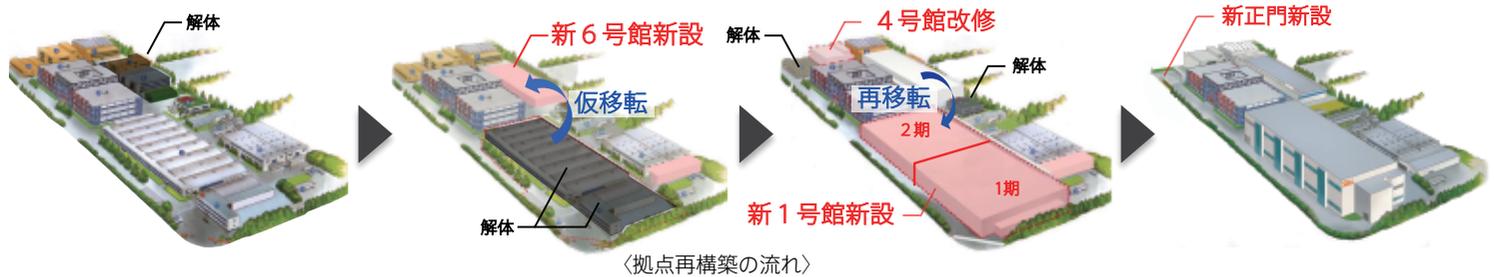
4. 生産拠点の再構築コンサルティング

理想の「ものづくり」環境を実現する拠点再構築

秦野製作所再構築プロジェクトは、企画段階から8年もの歳月をかけ実現しました。前提条件として、生産を止めることなく再編しなければならず複雑な玉突きを初期段階で入念に計画する必要がありました。長年稼働してきた国内生産拠点では、限られた敷地面積、施設の老朽化、動線の非効率化、度重なる生産ラインの変更など、多くの問題を抱えています。我々はディスカッションパートナーとなり、様々な視点から、スタンレー電気の中に眠っているアイデアを第三者視点で視覚化させ、さらに、弊社が培ってきた他社・他業界におけるソリューションアイデアを提供し、現場の方とともに秦野製作所の「あるべき姿」を導き出し、再構築を推進しました。「安全で防災に強く環境にもやさしい」「無駄のない工場づくりを追い続ける」「生販技の機能が連携し顧客満足度が高く収益率が高い」をコンセプトに現場の方と協働した結果、理想の「ものづくり」環境が実現しました。



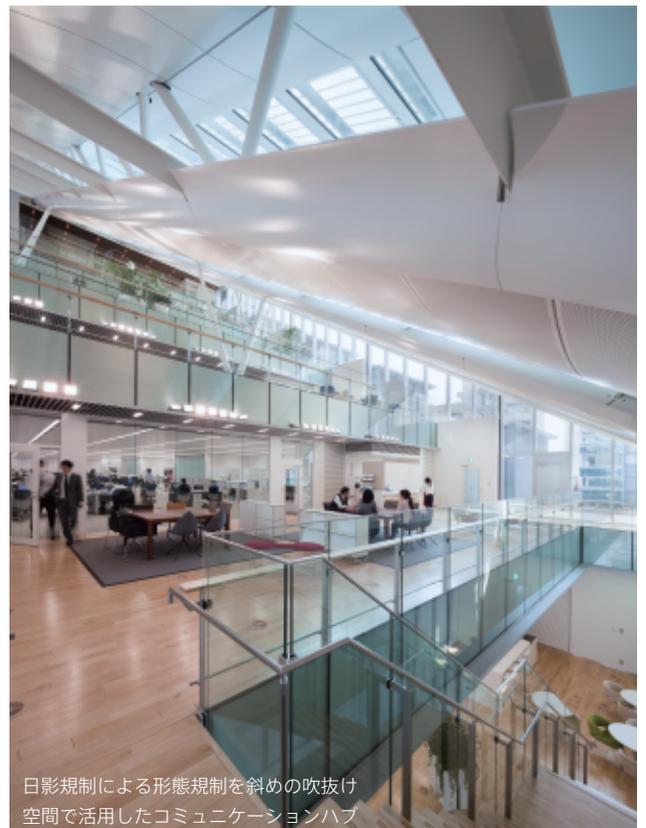
〈秦野製作所全景〉



5. グループ全体のグローバルヘッドオフィス

グローバルコミュニケーションのハブとなる6層吹抜空間

スタンレー電気株式会社は、世界15カ国を結ぶグループの中核として、グローバルなコミュニケーションのハブの役割を果たし、「戦略中枢拠点としてのスピーディーな意思決定」「情報受発信とコミュニケーション」「ユニバーサル」をコンセプトに計画した次世代型オフィスビルです。プランテックグループでは、企画・基本計画から基本設計・実施設計監修・監理、さらには施工品質の確保のため、施工JVの一員として品質・コストの管理、ハイグレード仕様の内装部の施工、システム構築のサポートまで行いました。まさに、スタンレー電気とともにプランテックグループ全体で関わったプロジェクトとなります。本社は、社員同士のコミュニケーションを活性化するため、階段状にセットバックした部分を傾斜した大屋根で覆い、6層分が斜めにつながった吹抜け空間「コミュニケーションハブ」を設けました。この部分の床面積は、合計1フロア分の執務空間と同じ面積を持っています。また、環境にも配慮しており、本プロジェクトはCASBEE Sランクを取得しました。



日影規制による形態規制を斜めの吹抜け空間で活用したコミュニケーションハブ

所在地：東京都目黒区
規模：地上7階/地下1階/塔屋1階
設計期間：2010.5-2011.9
施工期間：2011.10-2012.11

敷地面積：2,752.13m²
建築面積：2,160.5m²
延床面積：13,466.22m²

PLANTEC

<http://www.plantec-associates.co.jp/>